大学生の力を活用した集落復興支援事業
平成 29 年度報告書

下尻自治区

上越教育大学大学院美術コース
伊藤研究室

目次

Ⅰ　はじめに
1. 研究室概要
2. 集落概要
(1) 人口及び世帯数、位置
(2) 歴史
(3) 現状
3. 研究概要
4. 昨年度の活動

Ⅱ　活動内容
1. スケジュールと活動趣旨
(1) スケジュール
(2) 活動趣旨
2. 活動内容
(1) ワークショップ内容についての検討
(2) 民具(笠・蓑)についての調査と活動場所の設定
(3) チラシの作成と PR
3. ワークショップ当日の活動
(1) 田崎先生によるご講義
(2) 下野尻区及び旧越後街道の探索
(3) 地域住民による紙芝居
(4) イザベラ・バードを描く
(5) 採取した落ち葉と描いたものを構成
(6) 鑑賞
(7) 道の駅での展示

Ⅲ　おわりに

Ⅰ はじめに

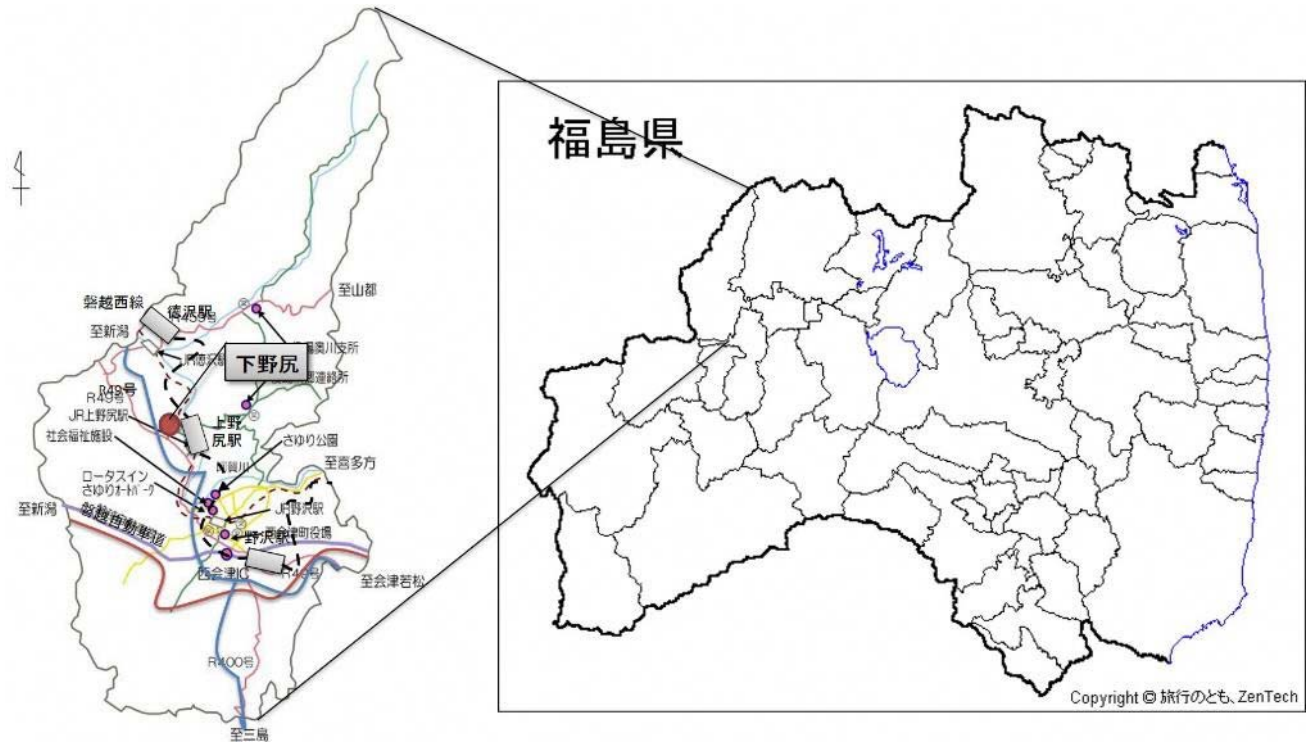
1.研究室概要

上越教育大学伊藤研究室は、美術を通した教育活動を、研究の軸としています。これまでに、新潟県の粟島浦村や、福島県喜多方市で、絵画制作を基本とした地域資源の再考を促すワークショップを、地域の小中学生と共に、展開してきました。私たちの活動では、美術の創作活動を通じて、地域における資源の価値についての研究を深めることを目的としています。

2.集落概要

(1)人口及び世帯数、位置

下野尻自治区は福島県耶麻郡西会津町村岡にある人口 213 人 79 世帯から成る集落で、JR 上野尻駅から徒歩 15 分、磐越自動車道西会津 IC から車で 15 分ほどに位置しています。



(2)歴史

かつて江戸時代には越後街道の宿場町として栄えていました。イギリス人女性探検家であるイザベラ・バードが訪れた車峠があり、その際の様子が『日本奥地紀行』に記されています。

(3)現状

集落には若者が少なく、高齢化率が 52%と高齢化及び過疎化が進み空き家が増えている現状です。平成 24 年度に、集落内に合った小学校が統合のため廃校となったことも更に拍車をかけています。

3. 研究概要

昨年度より「大学生の力を活用した集落復興支援事業」において対象集落である下野尻区において、現地調査を重ねてきました。調査を進めるなかで、下野尻区には慈眼寺や石割桜など、地域の宝である観光資源があること古くから伝統行事として祭事を大切にしていることを知ることができました。中でも、旧越後街道の玄関口として栄えた歴史に対し、多くの住民が誇りを持たれていることが判明しました。

4. 昨年度の活動

下野尻の集落内における現地調査や地域住民からの聞き取り調査を元に、観光資源となり得る箇所を示した観光マップの原案を作成し、地域住民に対し提案しました。私たちの提案に対し前向きな意見として受け取って下さった上で、改善に向けた観光資源となり得る新たな観光箇所等についてご指摘頂きました。

しかしながら地域住民の意識としては、私たちの提案した新たな観光箇所・観光資源の発掘といったことよりも旧越後街道の活用についての意識が高く、地域資源を生かした地域活性の提案を求めていることが判明しました。

Ⅱ 活動内容

1.活動スケジュールと活動趣旨

(1)スケジュール

(a)	9 月 30 日	ワークショップ打ち合わせ 会場下見・実地調査
(b)	10 月 15 日	シンポジウムの参加 ワークショップ打ち合わせ
(c)	10 月 25 日	小学校へのワークショップ PR ワークショップ担当講師との打ち合わせ
(d)	11 月 11 日	旧越後街道を活用したワークショップ 「旧越後街道を描こう！」
(e)	11 月 26 日	西会津町道の駅へ作品展示(~1 月 28 日)

(2)活動趣旨

本年度の活動において、

①旧越後街道を活用した地域活性化策を提案する
②本事業の趣旨である「大学生の力を生かした」活動をもう一度捉えなおす

この二つの事項を踏まえた上で私たちが下野尻区に対し、改めてどのような地域活性の提案ができるのか考え直しました。私たちは教育大学で「教育」を学んでいること、また、その中でも美術を学び、ものを作ることで得られる喜びや、創造活動の中で得られる、他者とのコミュニケーションを活動において大切にしたいことを確認しました。さらに、過疎化が進む現状と活性化に対する問題を、観光資源やそれに成り得る箇所といった”場”ではなく”人”に見出し、活動の対象を”場”から”人”へ捉えなおしました。活動の中心となる対象を観光資源から子どもたちに移行することで、将来この地を担う若い世代に対してアプローチを行うことを活動の主としました。

本事業の具体的な活動を行う上で西会津町教育委員会に協力を要請し、子どもたちを対象とした造形活動を主体としたワークショップの開催を提案しました。西会津町が「西小わくわくクラブ」という小学生を対象としたワークショップなどの活動を定期的に行っていることを知り、本活動もその一環として執り行うことを前提としました。

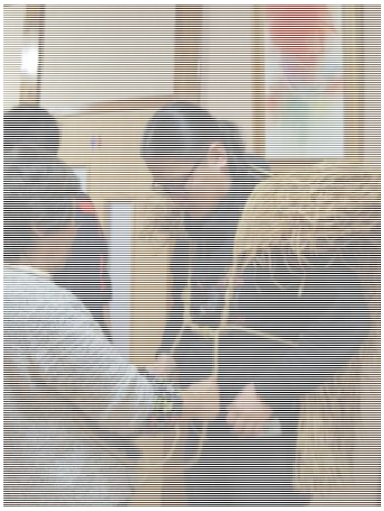
2. 活動内容

(1) ワークショップ内容についての検討

下野尻区の資源を活用し、子どもたちを対象としたワークショップを展開するにあたり、「旧越後街道」を舞台に、かつて宿場町として栄えた下野尻区及び西会津町の歴史を子どもたちに知ってもらうことを活動の柱として設定しました。その上で、西会津町教育委員会・生涯学習課の渡辺さんとの打ち合わせを重ね、本活動の内容と工程を設定してきました。

西会津が旧越後街道として栄えた歴史についてご講義頂く講師として、長く教員を務められ研究者でもある田崎敬修先生に協力を要請しました。田崎先生との打ち合わせの中で、街道の歴史を子どもたちに伝える上で当時の旅人の様相についても触れたいとのご提案がありました。そうしてイザベラ・バードが旅をした事実になぞらえながら歴史を語る方が、子どもたちが理解しやすく、下野尻区の歴史を伝えられる手段となり得ると考えました。

(2) 民具(笠・蓑)についての調査と活動場所の設定



そこで、当時の様相について伝える上で有効であろう民具(笠・蓑)について調査を行いました。私たちは元福島県立博物館学芸員佐々木長生先生にイザベラ・バードの旅の様相について伺いました。佐々木先生からは、民具としての蓑は旅人の雨具としては活用されていなかったことや当時の合羽の存在についてご教授頂きました。しかし蓑をイザベラ・バードが旅に使っていなかったとしても、民具として当時の暮らしの一端を子どもたちに伝える上では有効であろうとのご指摘を頂きました。

旧越後街道を旅したイザベラ・バードが下野尻区にある車峠の茶屋に宿泊した事実をもとに、活動場所を宿泊した茶屋跡と設定しました。ワークショップ開催の時期を秋と定め、紅葉が染める街道を探索しスケッチすることで、体験と制作を通して地域資源としての自然の美しさを再考する内容と定めました。活動場所を設定するにあたり、車峠茶屋跡にて事前にスケッチを行い場所の確認と、ワークショップ開催のための準備を進めました。

(3) チラシの作成と PR

ワークショップ開催にあたり、チラシを作成し小学生に対し広く宣伝を行いました。また西会津小学校を訪れ、活動場所設定の際に描いたスケッチを参考作品として提示しながら児童たちに直接本活動を PR し参加を呼びかけました。それと並行し下野尻区内においても回覧板を通してチラシを回して頂き、広く住民の参加も呼びかけました。

3. ワークショップ当日の活動

当日はあいにくの雨に見舞われ当初予定されていた内容を遂行することができず、事前に用意していた雨天時のプログラムを行うこととなりました。

(1) 田崎先生によるご講義

まず下野尻区内にある集会所で田崎先生から子どもたちへご講演頂きました。子どもたちは、越後街道を通りこの地を往来していた人々の姿や、当時宿場町として栄えていた下野尻区の様子について、学びました。その際には学生が描いた旅人の様相や宿場の外観などのイラストも用いられ、小学生にも分かりやすい、大変充実したご講義となりました。

(2) 下野尻区及び旧越後街道の探索

その後雨脚が少し弱まった頃合いに、旧越後街道入口まで探索を行いました。道中では、道に残る当時の痕跡を見学するとともに、田崎先生や地域の方からお話を聞き、当時の様子について想像を膨らませていました。また旧越後街道入口周辺においては紅葉が綺麗だったため、後の活動で使うために大人も子どもも一緒になって落ち葉を拾い集めました。

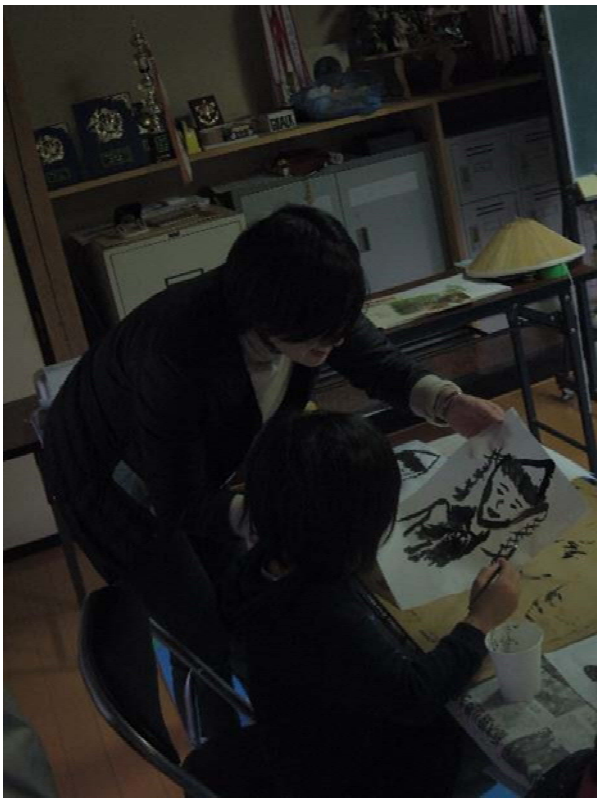
(3) 地域の方による紙芝居

集会所に戻った後は、地域の方による紙芝居の上映が行われました。この紙芝居は地域の方が作成したもので、イギリス人女性探検家であるイザベラ・バードが旧越後街道を通ったことを中心として構成されているものであり、子どもたちは紙芝居を通してイザベラ・バードについて学んでいきました。

(4) イザベラ・バードを描く

これらの活動を通して子どもたちが得た当時の暮らしの知識や、下野尻区及び旧越後街道入口でのフィールドワークでの体験、そしてイザベラ・バードのことを創造活動に変換させる内容として、イザベラ・バードを描く活動を行いました。地域の方からお借りした、蓑と笠をまとった本学留学生をモデルとし、イザベラ・バードと見立てての活動となりました。蓑や笠は地域の方にとっては懐かしいものであり、子どもたちにとっては新鮮なものだったようです。

子どもも大人も一緒になり、参加者たちは学生の指導を受けながら半紙に墨汁を使ってイザベラ・バードを描いていきます。制作途中には作品を前に掲示し中間鑑賞を行いました。そうして他の作品を見て感じたものを、次の創作活動に採り入れている様子も見られました。墨汁で描いた後は水彩絵の具により、着彩をしていきました。



(5)採取した落ち葉と描いたものを構成

描き終えたバードを切り抜き、フィールドワークで採取した紅葉と画面上で構成しラミネート加工することで一つの作品として仕上げました。イザベラ・バードが実際に会津を旅したのは 5 月か 6 月と言われているため秋の紅葉の時期ではありませんが、もしもイザベラ・バードが秋の越後街道を旅していたらこういう感じかな、という想像の元に、自由に画面を構成していきます。参加者によって構成の仕方が異なり、全ての活動を通して得られた知識や体験が、参加者それぞれの中で再構成され作品として表出されていると感じました。特に子どもたちの作品は色遣いや落ち葉の選び方など、それぞれがイザベラ・バードの旅に想いを馳せた様子が感じられる素敵な作品となりました。

(6) 鑑賞

完成した作品を集会所の窓に貼り、鑑賞を行いました。光を透かして見ることで机の上で作っていた時と異なった見え方ができ、たくさんの作品が貼られたことでとても賑やかな、思い思いの作品を鑑賞することができました。

(7)道の駅での展示

参加頂いた方々の作品は、後日西会津町の道の駅にて展示作業を行い、1 月 28 日まで展示し一般に広く公開されました。それぞれの作品を際立たせるために背景に黒布を張り、バランスを考え展示作業を行うとともに、本活動の趣旨をまとめたボードも展示しました。展示を通し、下野尻区のことや旧越後街道の歴史、子どもたちの活動等を道の駅を利用する多くの人に周知することができたと考えられます。

Ⅲ おわりに

2年間に渡る活動を通し、私たちは下野尻区の持つ地域資源を深く知ることができました。また下野尻区だけに限らず、西会津町が宿場町として栄えた歴史や旧越後街道がこの地域の発展に大きく関わってきた事実を改めて確認できました。また、現在では使用することのなくなった街道が守られ、街道の歴史が誇りとして地域に根付いていること、歴史はその土地に住む人によって守られ受け継がれていくことを改めて知ることとなりました。私たちが下野尻区を訪れ交流を図ったように、越後街道を通して様々な人が往来し交流が図られ、その事実が歴史となって受け継がれていくことが結果として地域の持つ魅力へと繋がることが判明しました。

また本活動を通して改めて痛感したことは、即時性のある地域活性化の難しさです。地域資源を生かした活性化の手立てを考案し、提案することは可能かもしれません。しかし、現実的な解決に結びつく提案が実行され、成果として還元されるまでには、実に多くのクリアしなければならない課題があることを実感しました。特に私たちの行った活動は、地域に住む人、そしてこれからこの地域を担う人に向けたアプローチでした。人を育てるといった「教育」に関わる地域への貢献は、即時的な解決は望めず長期的な展望を持って行っていくことを前提としなければなりません。昨今の社会事情を鑑みれば、コストパフォーマンスが良いことが善とされ、成果主義がいたるところで求められています。しかし、地域が持つ資源は一日にして作られたのではなく、長い時間をかけて形成されてきた事実を私たちはもう一度知るべきなのだと思います。そしてその地域の資源を守り、活用していく術を考え直していく必要があるのだと思います。教育を学ぶ者として本活動が、今後の地域活性化に少しでも貢献できたのならば幸いです。